



琵琶湖汽船(株)

同社は、経営理念として「母なる湖、琵琶湖を大切に思い、その恵みに感謝し、現在及び未来の人々が感動的で幸せな体験を琵琶湖でできるように、積極的に行動します」を提唱し環境保全とともに地域の活性化にも取り組んでいます。その取り組みとして主に以下の項目が挙げられます。

- 所有船舶の潤滑油を環境にやさしい植物性油脂への見直し
- クリーンエネルギーを推力とする環境学習船の建造計画
- びわ湖・里山体験学習のプラン化と実施
- ピアンカによる「環境学習」や「学びの旅」クルーズの実施
- 「地産地消」・「地引網体験」など沖島体験ツアーを通じて持続可能な暮らしを知る体感観光の実施
- 地元NPO環境活動団体との協力体制による各種イベントへの参画

(株)琵琶湖ホテル

同社では、お客さまに心のくつろぎや開放感、ゆったりと心豊かな時間を満喫していただくこと、つまり「リラックス」の提供が商品だと考えています。そのためには、目の前に広がる雄大な琵琶湖やそれを取り巻く環境なくしては成り立ちません。そこで、本業としてビジネスレベルで環境問題に取り組める仕組みづくりを模索してきました。

その第一が“里山の食彩”と名づけた取り組みです。地元でできた滋味豊かな食材をレストランで提供し、お客さまには楽しくおいしいものをたくさん召し上がっていただくだけで環境に寄与できるというストーリーを作っていくことです。その最たるものが“棚田米”。その呼称もお客さまの中に定着し、ブランド化にも成功しました。

食材から環境へ馳せる思いはお客さまをその環境にお連れし、

(株)京阪百貨店

同社では、電力、水道、コピー用紙、包装紙、レジ袋等の使用量の削減、廃棄物の削減、環境に配慮した商品の積極販売、グリーン購入の推進、環境関連のイベント等の開催を重点的な取り組み事項として環境活動を実施しています。電力使用量の削減については、各従業員の節電活動に加えて、同社守口店建物の西側ガラス壁面の1階から8階に遮光フィルムを施工することや、中間期における冷水温度の変更等設備運用の変更により1.2%の削減を達成しました。

また、守口店で平成18年からライトダウンキャンペーン「ブラックイルミネーション」に参画し意識の啓蒙にも努めています。廃棄物の削減については、平成17年10月から生ゴミ処理機を設置し1日当り約250kgを処理しています。そして、処理物は有機肥料として地域住民の方に無償で配布しています。環境に配慮した商品の積極販売については同社独自の環境配慮基準を定めて、この基準を満たしたものを「環境適合品」として認定し

同社は「環境保全を基盤に、びわ湖と里山を主な舞台とした『LOHAS志向観光』を振興し、地域の活性化を目指す」事業化プランで滋賀経済同友会から平成18年に「LOHAS志向観光・事業化プラン大賞」を受賞しました。同社では、今後、上記の事業化プランの実現に努め、滋賀県全域での「LOHAS志向観光」の形成と推進に寄与していく予定です。



地引網体験(沖島)



琵琶湖の歴史・自然講話(ピアンカ船内)

地元の人の知恵を学び、里山を体感するエコツーリズム“里山塾”を生み出しました。地元の方との交流を重視し、環境の深い理解と行動に結びつけていくことを目指しています。

“里山の食彩”は商標登録もされ、また一連の活動は平成18年度の滋賀経済同友会「滋賀CSR経営大賞 ベストプラクティス賞」を受賞しました。これからもビジネスとして取り組み、全国へ向けて企業メッセージとして発信していきます。



里山塾稲刈りの様子



里山の食材を使用した料理

販売しています。これらの商品はエコグッズとして、オリジナルマークをつけた店頭広告でセールスポイントを説明し積極的に販売しています。環境関連のイベントではスマートラッピングを推進するために売場で風呂敷講習会等の開催を実施しました。その他、さまざまな取り組みにより概ね重点実施計画の目標は達成することができました。この他に、「エコ提案BOX」を設置し、従業員から広く環境に関わる提案や意見を募集しています。



生ゴミ処理機



肥料配布用BOX



環境適合品マーク「エコアイテムマーク」